

動物由来感染症



BSE感染症牛や鳥インフルエンザ、サーズ等、動物に関する感染症が話題になることがあります。動物から人間にうつる病気を「動物由来感染症」といいます。近年のペットブームで多くの家庭が、動物と大変近い距離で生活するようになりました。また、珍しい爬虫類や、野生動物をペットとする人も増えています。節度ある接し方が必要です。

◆原因◆

病気の原因となるものには、何センチもある寄生虫から、原虫や細菌やウイルス、そしてプリオンというタンパク質までも疑われています。

◆病原体が人間にうつる経路◆

【直接伝播】 感染源の動物に咬まれたりひっかかれたりして、傷からうつることをいいます。口の周りをなめられたりして感染することもあります。

(狂犬病 ネコひっかき病 トキソプラズマ等)

【間接伝播】 大きく3つに分けられます。

●**環境媒体**: 汚染された水や土壌から感染したり、動物の排泄物の中の病原体が舞い上がりそれを吸い込みうつる。(炭疽等)

●**ベクター媒介**: ノミ、シラミ、ダニ、蚊などを介してうつる。(日本脳炎 ペスト 日本住血吸虫等)

●**動物性食品**: 病原体を持っている家畜や魚介類を食べることによってうつる。(アニキサス症 サルモネラ症等)

◆主な動物由来感染症◆

犬 : パスツレラ症、皮膚糸状菌症、回虫症、狂犬病

猫 : ネコひっかき病、トキソプラズマ症、回虫症など

鳥類: オウム病、インフルエンザ、クリプトコックス症

魚類: サルモネラ症

齧歯類(リス ネズミ プレリードック等):

レプトスピラ症、ペスト、野兔病

コウモリ: リッサウイルス感染症、ニパウイルス感染症

キツネ: エキノコックス症、狂犬病

サル : 細菌性赤痢、結核、エボラ出血熱(?)

牛 : Q熱、クリプトコックス症

※ 狂犬病の日本での発生はありませんが、海外旅行中感染し、帰国後発症し死亡した例があります。



◆予防・日常生活で注意する事◆

- 口移して餌を与えたり、スプーンを共有するなど、過剰な触れあいは控える。
- 動物にさわったら、手を洗う。
- 糞を放置しない等、動物の身の回りは清潔にする。
- 野生動物の飼育をしない。
- 海外旅行中、動物には近づきすぎない。
- 子供や高齢者、免疫力が低下した病気治療中の患者は、感染後、重傷になることがあるので注意が必要です。

☆☆☆☆子どものおやつ☆☆☆☆

おやつ...この言葉ってなんだかワクワク楽しい響きですね。大人にとってのおやつとは、ほっと一息つきたい時に、またはちょっとお腹がすいた時に、手軽に食べられるケーキやクッキー、チョコレートなどでしょうか。

では、子供にとってのおやつとはどんなものなのでしょう？ 子供の胃袋は小さいので、3回の食事では成長や運動量に見合う栄養を摂る事が出来ません。ですから本来子供のおやつとは、3回の食事では摂り切れない栄養素を補つもので、いわば第4の食事と言ってよいと思います。

★おやつって何で摂るの？

- ①不足するエネルギーや栄養素を補う ②水分補給 ③リラックス効果 ④楽しい時間を与える

★おやつ選び方と注意点

- ①お茶が牛乳など甘くない飲み物と組み合わせ (例:クッキー+牛乳 or お茶)
- ②エネルギー量⇒食事に影響しない量を守りましょう。
- ③塩分、脂肪分、食品添加物⇒市販のお菓子購入時はよく確認しましょう。
- ④虫歯になりにくい⇒おやつを食べる回数が多くなればそれだけ虫歯になる確率も増えてしまいます。ダラダラ食いはやめてしっかりおやつの管理を心がけましょう。
- ⑤素材や形⇒こんにゃくゼリー、豆類、キャンディーはのどに詰まらせやすいので注意しましょう。

★おやつのエネルギー量について

1日のエネルギー量の目安...1才児:100~200kcal 3才児:130~260kcal 6才児:300kcal

市販のおやつのエネルギー量の比較

100%果汁ジュース 200ml	80kcal
100%りんごジュース 200ml	88kcal
普通牛乳 (200ml)	134kcal
甘辛せんべい (1枚 16g)	60kcal
かび-ポ-トチップス薄塩味 (90g)	504kcal
プッチンプリン (1個 110g)	157kcal



今日のおやつ、
なんだろう？



今はコンビニやスーパーで手軽にお菓子が手に入る時代です。大人がしっかり管理して、おいしいおやつの時間を楽しむ事ができるようなものですね。

なるべく手作りのものを食べさせ、市販のおやつも、子どもの体と心にとって、少しでも安心できるものを選んでいきましょう！